

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 門司中央 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・意欲的に問題解決に向かう姿や、「ねばり強くやり抜く子ども」という本校の目指す子どもの姿が表れている。 ・短文は書けるが、文と文のつないだり、表現方法を工夫したりして書く力に課題がある。
	よくできた問題	・日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる問題
	努力が必要な問題	・情報と情報との関連の仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うことができるかどうかをみる問題
算数	全体的な傾向や特徴など	・算数科の学習においても、問題解決型の学習展開を取り入れてきたことで、子どもが意欲的にねばり強く学習に臨む姿が見られている。 ・数量関係においての理解はできているが、数量関係を適切に表現することに課題が見られる。
	よくできた問題	・示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見出した違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題
	努力が必要な問題	・図形の性質や意味理解をみる問題 ・比例で、伴って変わる2つの量が比例関係にある条件を用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめは、どんな理由があってもいけないこと」に対する肯定的回答が100%であった。本校でも学期に1回の児童アンケートでも同項目を取り入れ、「いじめや相手を傷つけることは解決策ではない」という指導を一貫して児童へ働きかけを行ってきた。今後も、児童への働きかけを継続するとともに、自他を思いやる心の育成を継続していきたい。 ・「将来の夢や希望をもっているか」「人の役に立ちたいか」との問いに対し、肯定的回答が90%を上回っていた。先の自分の姿を想像したり、働くことよきに気付いたりしていることを価値付ける指導を、今後も継続していきたい。 ・「自分にはよいところがある」の、肯定的回答の割合が低かった。日々の学校生活や、行事等の児童の活躍の場を工夫したり、その活躍を自他ともに認め合える機会を設けたりするなど、児童の自尊感情や自己有用感を高める取組を増やしたりしたい。 ・「家で自分で計画を立てて勉強していますか」の問いについて、肯定的回答が60%を下回っている。個に応じた課題解決のために、ドリルアプリ等を活用した家庭学習を推奨していきたい。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・日々の1単位時間の授業づくりを工夫する。どの教科においても問題解決型の学習を仕組むことで、子どもが深く学ぶ授業を積み重ねる。
・基礎基本の学力の定着を図るために、個に応じてICTやドリルアプリを効果的に活用し、既習学習に繰り返し取り組む。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・家庭学習の充実に向け、家庭学習の内容や質についての検討を行う。
・ドリルアプリを活用した課題を含め、自主学習の仕方を具体的に紹介することで、自主的・計画的に取り組める力を育成したい。
・令和5年度に引き続き、読書習慣（特に家庭での読書習慣）の推奨に取り組んでいきたい。